

物の重なるものは春日作の「翁の面」「紫石硯」「観音像」
「毘沙門天」「役の行者」「妙童鬼善童鬼の像」政宗公の用
ひし南蠻鐵の鐙の片、宋の佛鑑禪師から傳つた金毛拂子、
支倉六右衛門常長がロームより持ち歸へつたギヤマンの燭

臺、支那渡來の堆朱の香爐、朝鮮華嚴寺の壁石、蒙古の毒
矢、雲居禪師の袈裟衣、此の外幾多の寶物が保存せられて
ある。

或は南、或は北、(地方官大異動)

成 武 巖 根

東に西に南に北にと書き始めたが夫れは道路の事ぢやない、だが道は道なり吏道の道ぢや。此吏道が正しく直く辿られるなら文化の道が整へられて道路改良會の目標とする道路の改良がドン／＼進捗する譯である。四方八方に道路は延びる、だが或は東に又は北に轉々するのが地方官である。馬場内相は内務行政には縁がうすいので思ひ切つた地方官の交迭を斷行するであらう。内務行政の沈滞が叫ばれて居るから空氣一新の意味を以て見ても地方行政の刷新が遂行

せられるゝであらうとは操觚界のみの噂ではなかつた。しかしだ其の實行方法になると不案内の馬場内相は見當がつかないであらう。そこで其の參謀長には、相談相手には否草案者たる事務次官には何人を以てするであらうか、篠原次官は留職を肯しない、されば唐澤元警保局長を起用するか、夫れとも湯澤前次官に白羽の矢をたてるか廣瀨社會局長官を擢用するか世の注目を惹いた。如何な事情からか廣瀨氏の擢用が實現された、現任者であるのとそして去る九

年夏埼玉縣知事から土木局長として本省人をしてから滿三年になるから省の外内に涉りて通曉するのは勿論である、加之だ新居人事課長が慎重細緻な調査資料をもつての援助があるから人事行政の萬全を期待された。時は到來した、六月下旬頃からチラホラ地方官大交迭の噂が生し、其の準備工作とも見ら可べき事件が現はれて來たが、果して如何なる場面が展開さるゝであらうか、次官々舎に祕策をねる廣瀨次官はやせたやせたとの下馬評さへ傳へらるゝ、事程夫れ程此人事行政には苦勞せられたことは筆者の言ふを待たないで明かな事なのである。もしやと氣遣はれて令夫人から心を込めた食膳が、私邸から送り届けられたことに見ても想像に難くないであらう。

七月七日發表せられた所では石原千葉、大場愛媛が依願免官一戸奈良、白松大分が休職となり、其結果左の新任轉任が行はれた。

任群馬縣知事 山梨縣知事 土屋 正 三
任千葉縣知事 岡山縣知事 多久 安 信

任奈良縣知事 宮崎縣知事 三島 誠 也
任山梨縣知事 内務省會計課長 藤 原 孝 夫
任福島縣知事 群馬縣知事 君 島 清 吉
任岡山縣知事 福島縣知事 伊 藤 武 彦
任愛媛縣知事 佐賀縣知事 古 川 靜 夫
任大分縣知事 兵庫縣書記官 粟 屋 仙 吉
任佐賀縣知事 岩手縣書記官 小 山 知 一
任宮崎縣知事 朝鮮總督府事務官 相 川 勝 六
であつた。部長級では赤土長崎、竹田奈良、田中長野、麻生石川、未原鳥取、田島鹿兒島の六總務、松崎愛知、森本鹿兒島の二經濟、木村滋賀、猪股愛媛の二學務、桂岡山警察部長の十一氏が依願退官して、其の結果、總務部長には東京佐々木芳造、京都橋本清吉、兵庫安岡正光、長崎副見喬雄、新潟梁井淳二、千葉上田誠一、茨城今松治郎、奈良八田三郎、滋賀内藤三郎、長野出石於兔彦、福島眞崎長年、青森小田光伴、山形熊野周二、石川白戸半次郎、鳥取清水谷徹、島根並川義隆、廣島淵上房太郎、山口白井漢、愛媛

荒山隆、高知永橋茂男、大分相野田彌平、佐賀加藤初夫、
宮崎辻利吉、鹿兒島山ノ内義文、沖繩森下重格。學務部長
には北海道高辻武邦、東京多湖實夫、神奈川中原啓造、長
崎遠藤直人、新潟岡利和、栃木宮崎謙太、奈良床次徳二、
滋賀渡邊信男、青森坂田喜一郎、富山坂田啓造、鳥取上村
靖、島根新見俊介、岡山高橋三郎、廣島中村元治、徳島横
山一俊、香川乾伊太郎、高知岡本正一、福岡篠山千三、大
分磯部巖、愛媛高濱淳、經濟部長には北海道遠山信一郎、
東京渡正監、兵庫石井錦樹、新潟山田武雄、埼玉武政隆一、
千葉清水虎雄、愛知高野源進、静岡岡田包義、山梨石川貞
四郎、長野上原參良、宮城工藤鐵太郎、福島坂井貞一、岩手古
城林、青森手島傳、富山東徳太郎、鳥取原保雄、徳島迫靜
吾、佐賀柏木輝夫、熊本山本義章、高知堀口功、沖繩渡邊
龜吉、警察部長には長野小菅芳治、埼玉坂信也、奈良青木
秀夫、山梨桃井直夫、福島青柳一郎、岩手高島資吉、秋田
森本雅雄、石川齋藤亮、富山菅澤肇、島根友末祥治、岡山
泉守紀、廣島小泉梧郎、山口竹谷源太郎、高知安田穰、鹿

兒島西井一孝、沖繩松浦榮と云ふ廣汎な大量的異動であつた。躍進振興の時代に新人を迎へて各地内務行政の刷新を企圖する上に如何なる活動を爲すのか興味ある問題であるが聊か良二千石各位の心臓の打診を試みる事としよう。

△土屋群馬 静岡の生れ大正六年東大卒業、兵庫縣屬を振出しに十三年内務事務官から同書記官、昭和二年に茨城學務部長夫れから警保局圖書課長、警務課長を經、六年岡山縣内務部長に轉し、十年山梨縣知事に榮轉、在任二年半で今回轉任した。山梨在任中には銀行合併問題、殖産銀行の設立、中學校増築、嶽麓農工學校、公嶽農民道場、園藝試驗場新設等に功を收め累代知事中異色ある知事として評せられて居る、語られた所は斯うだ 〓

「草津よいとこといつた」との草津節がある、先づ群馬に關する限りの知識はこれだけだが産業の盛んな縣と聽いて居る。殊に群馬の吾妻高原、山梨の富士高原、長野の淺間高原から生産される蔬菜の共同出荷は三縣の經濟ブロック結成によつて實現することに決定され、近く三

縣代表會議が群馬縣廳で開かれるといふことになつてゐる、長野縣の事情を知つてゐる僕としては非常に働き甲斐があるものと信じてゐる。」

△多久千葉 佐賀の生れで大正四年東大政治科卒業、三重縣屬を振り出しに同縣名賀郡長、京都府加佐郡長を経て同府農務課長となり、十一年四月京都市助役となり、同十四年愛知縣地方課長となり、十五年書記官に昇進、富山、神奈川、徳島、福井、和歌山各縣に亘り學務部長、警察内務部長を歴任、昭和六年六月警視廳官房主事となり在任僅かに五ヶ月にして長崎縣内務部長に轉し七年六月青森縣知事、十年八月岡山縣知事となつた。ゴルフであれ、スキーであれ、マジヤンであれ、相當の趣味をもつ。又、行脚知事との名がたゞへられて居る。

「何におれが千葉へ石原先輩の後任となつた榮轉ぢやなくて水平轉ぢやないか、千葉は全く初めてのところでも知らない、だが東京に近いし活氣があり却々よいところだらうと見える、長男は東京にゐるし娘を東京の學校

へやるのに都合がよくなつたよ……」

といともほがらかに微笑をたゞえつゝ語られた。

△三島奈良 熊本の生れ、大正七年東大を卒業、宮崎縣屬を振出しに累進々々警視廳警務部長となり、昭和十年一月宮崎縣知事に昇進し、爾來縣財政の建て直し、農山漁村の更生に其の手腕を振ひ相當の功績を擧げておる。劍道は大得意の技、庭球にも趣味をもつ重厚な人物である、

「そうだ奈良へ榮轉となつた、奈良は二度ばかり遊びに來たくらゐで全然知らない、しかしわが國文化の發祥地であり、近くにはわが國經濟の中心たる大阪、神戸を控へ、さらに京都に接し重要な土地で特にわが國未曾有の大祝典紀元二千六百年祭を三年後に控へて任をうけたことは何よりの光榮で、意義深い皇紀二千六百年祭典を目前にして神武天皇御東遷の地から肇國の大業を完成遊ばされた奈良縣に榮轉するのも不思議な機縁といはねばならない。今後は縣政發展のため盡す覺悟である、大いに頑張るぞ」

と警察界出身らしい意氣を示した。

△藤原山梨 青年知事としての初顔であるが岡山縣の生れで、大正九年帝大政治科を卒業し、山口縣屬を振出しに富山、岐阜各地で視學官、警務部長に任じ昭和七年内務事務官となり、同十一年九月大臣官房會計課長に任ぜられ今日に及んだ、山梨縣知事に榮轉、小柄な濃厚な人物で、富士山を仰いでサツパリするネと言はるゝ心構の持主である、觀光山梨の地に一步を入れられて曰く、

「本省でも三年後のオリンピックを目指して本腰を入れることになつてゐるから本縣もこれに呼應してやりたいと思ふ、土屋知事が描いてゐた案に基いて三年後の外客誘致に申分ないまでに立派なものとしたい考へである。

地方、中央を問はず官僚、獨善といふことは宜敷くない、各方面の意向を聽いて本縣としての進路を樹てねばならぬ、幸ひ會計課長時代本縣が財政的に困つてゐるといふ事情も多少は知つてゐるから財政の建直しには力を入れたいと思つてゐる、保健社會省が生れると地方廳にも

保健社會部が生れることに閣議では決つてゐるやうだが未だ具體化してゐないが、これと關連し最近やかましく唱へられてゐる縣民の體位向上については是非とも明年度に於て豫算化したいと思つてゐる。

と此のうら若き良二千石の手腕に期待する所が少なくないが、次の諸問題に如何なる手腕を振はるのであらうか、是非とも善所を惻望せざるを得ないと甲州出身の一政客は話された。問題は斯うだ。

A 縣園藝試驗場 本年度の新規事業として峽東方面に經費五萬圓で新設することになつてゐるが、地元の寄附一萬五千圓が出来れば根津嘉一郎氏が三萬五千圓を寄付することになつてゐるだけで何等好轉せず今日に至つてゐる。

B 町村の綜合指導 數藤前總務部長の頃から計畫されてゐた綜合指導は本省が地方廳に課した大きな命題であるが昨年八月から話題に上つてゐるだけで未だに指導方針が立たず兎もすると經濟部と總務部の摩擦する

やうな空気を醸してゐるので指導方針の確立は注目される。

C 經濟課長問題 同課が農務課より獨立してから課長は經濟部長兼務となつてゐるが、農村の經濟を根本的に建直さうとする重い使命を擔つてゐるにも拘らず指導方針が形式に流れて各係が孤立的態度を持し而も全體の動向を統制する中心人物に缺けてゐる實狀にあるので缺員課長に對し、知事がどう裁斷するか。

D 滿洲農業移民問題 農地に恵まれない本縣の經濟更正は移民の獎勵によつて耕地の根本的解決をしなければ更正運動も單に上つ面だけに終ることに結論されてゐる關係から、移民問題の解決は焦眉の急務とされてゐる。

筆者は衷心から自愛健闘を祈る。

△君島福島 栃木の生れ、大正六年東大政治科卒業、奈良縣屬となり、八年に地方警視となり、十年二月國勢院書記官から内務省社會局事務官に轉じ、昭和六年茨城縣知

事に昇進、香川、宮崎、群馬の各縣知事を歴任、趣味は圍碁、和歌である、波山と號し腰折れには特に堪能であることと聞く、沈黙寡言、「今回の異動は餘り變り榮えがないこと」と。知事に初任以來七年で五回目の轉任だったので落ちついたものだ又曰く、

「何しろ最初奈良縣説があつたのでウンザリしてゐたよ、奈良縣は五年間も居たんで變り榮えがないぢやないか、福島縣は全く未知の土地だが、群馬の隣接縣でしかも日光國立公園の地帯であるから轉任のやうな氣はしない、新田公六百年祭やその他懸案の仕事は澤山あるが前任地の後任土屋君は高等學校から大學まで一緒に一高時代は中寮七番で一緒に暮した親友だ、中部八縣の關係や、中部三縣經濟更正問題で屢々會つてゐるから本縣の事情もよく知つてゐるし後任としては群馬縣のために慶祝に耐へぬ打つてつけの人物だ、土屋君なら後事を託して仕事の延長をして貰へると悦んでゐる」

△伊藤岡山 岐阜縣下大江村に生る、明治四十四年東大卒

業、大正四年富山縣屬兼警視となる、七年六月千葉縣市原郡長に轉じ、八年八月朝鮮總督秘書官となり、十一年内務省事務官兼參事官に轉じ、十二年四月内務參事官專任同年八月土木局港灣課長となつたが翌年二月課長を免ぜられ内務書記官となり再び土木局港灣課長となる、十五年内衛生局保健課長となり、昭和六年十二月岐阜縣知事に榮轉翌七年六月滋賀縣知事に九年七月福島縣知事に轉任今回岡山に轉じた。

地方長官としては十二分の經驗をもつて居るので岡山縣に轉じたとして別に苦勞の種にもならないであらう、中々如才のない知事である、前任地福島には二年八ヶ月の在任で其の間例の凶作善後措置や東北興業兩會社の設立に參與、社會教育課の獨立、縣廳舎の改築等大きな足跡を残し三回に亙る通常縣會數度の臨時縣會等も大體くスラと圓滿に終始し、一回も豫算の修正なくして濟まし縣政の刷新等も着々實行された、伊藤知事は、「岡山縣にはまだ一度も來たことがなく全く未知の土地

でこれから直ぐ研究します、福島島の二年八ヶ月間は實際愉快に過ごしました縣會等もよく協調して戴いて大過なく過ごすことが出来ました、自分の一生中最も印象的なところになりませう、其處に居たお蔭でスキも覺え、健康にも恵まれてゐるので大いにやりませう」と語られた。

△古川愛媛 鹿兒島縣日置郡日置村に生る、大正四年五月東大卒業同年六月靜岡縣警部となり次で縣屬となる、同縣引佐磐田兩郡長を経て八年靜岡縣理事官、熊本縣理事官、兵庫縣理事官を歴任學務部長の職に在つた、十四年五月京都府書記官栃木縣書記官（警察部長）昭和二年五月福岡縣書記官（學務部長）を経て四年七月警視廳書記官となり、保安部、官房主事、警務部長の職を勤め六年十二月神奈川縣書記官内務部長となり九年十一月佐賀縣知事に昇進し在職二年半であつた。

趣味はゴルフ、テニスである、事務家肌の温厚な人物で、唐津港の重要港灣指定の如き其の功績を残して居る、「四國には足を入れたこともない、勿論本縣愛媛は始め

てだ、佐賀縣は知事として始めてゝあつたが、縣民の氣分とピッタリ合して何等の蟠りもなく、シツクリした氣持で仕事をして來たのは愉快であつた」

と如何にも性格其儘の感想を述べられた。

△粟屋大分 山口縣萩市の生れで、大正八年東大を卒業、

廣島縣屬となつて始めて官界に入つた。北海道理事官、

高知愛知兩縣警察部長を経て昭和七年大阪府警察部長に轉じ、其の在任中ゴーストツブ事件で第四師團參謀長と

其の正否を争ひガンバリストの名を得たのは餘りにも有名である又癩療養所問題の事件でも仲々ガンバツたものだ。ゴルフ、スキー、水泳、柔道等の運動は堂に入つたものである、同人間の噂では油繪もなか／＼巧妙な手腕をもつて職業人に迫つて居るとの事である、新明府は朗かに語られた曰く、

「本縣は選舉肅正の發祥の地だからいゝですよ、私も各地で肅正運動をやつて來ましたが本縣でやつた事例を引用して來たものです、温泉はあり氣候はよしそれに別府

には立派なゴルフリンクもありますから、ゴルフが楽しめることが何より嬉しいですよ……それに本縣は郷里にも近くその點も喜ばしいです」——と得意の程も察せらるゝ難治の世評ある大分縣である、大にガンバラれんことを祈る。

△小山佐賀 福島會津市の生れ、大正八年東大卒業、警視

廳警部補に任ぜられたのが官人としての第一歩である、

山梨、愛知、福岡、高知、秋田、熊本の各地に轉任、多

くは警察界に育つた。昭和九年五月岩手縣内務部長となり翌年經濟部長となつたが飛躍一番前例に乏しき榮轉振りが現はれて佐賀縣知事に榮轉せられた「熊本と福岡に居たことがあるので佐賀は多少知つて居る、知事は初めての職だがウンと働く、別に感想はないよ」とは語られるが前任地岩手での活動振りを見ると、昭和九年春熊本縣から岩手縣に轉任以來石黒英彦知事（現北海道廳長官）の下に懷中刀として冷害凶作や三陸大津浪など引續く災害に打ちのめされた岩手の更生に腕を揮ひ東北振興には

大きな功績を残した「馬車馬の如く働け」といふのがモットーで柔道は自稱三段、スキートはフオームよりも心臓で打る方で、昨年盲腸炎を切開して以来スケートに轉向した、邊幅を飾らず談論風發言僚のない野人牧民官だとの評がある。

△相川宮崎 一風異つた經歷の持主である、葉隠武士の流れをくむ佐賀縣の生れ、大正八年東大法科を卒業し、千葉縣警部を振出しに官界に入り、徳島縣理事官を経て昭和二年宮内大臣秘書官となり、昭和五年内務省に入り警視廳刑事部長となり同七年神奈川縣警察部長など歴任し同九年内務本省に入り、唐澤警保局長のもとに保安課長を勤め、唐澤氏の懐刀として敏腕を揮ひ、新官僚の逸材として光つてゐた。二・二六事件の責を負うて昨年四月總督府外事課長として在任今日に至つたものである。朝鮮に於ては鮮滿拓殖會社創立の後を受けて朝鮮人の滿洲國移民、鮮滿一如の具現、朝鮮貿易の海外發展などに關して敏腕を揮ひつゝあつた。趣味は乗馬とテニスである、

斗酒尚辭せず飲むに量なしとの事であるが、大々的の敬神家で旅行するにも神體を捧持して日夜神明の加護を祈ると云ふ。新時事として感想をうかざうと曰く、「朝鮮に於ては日なほ淺くなすべき仕事が多く残されてゐるのに今去るのは残念である、新任地の宮崎縣は宮内大臣秘書官時代にちよつと旅行したことがあるだけで任地としては全く未知の地である、宮崎縣は神國であり、知事として重大責任を感じる、一方新興工業地として躍進してゐるので、大いに働き甲斐があると思ふ」

と其の抱負の大なることをほのめかされた。

柚が深山に入りて木を伐るは材木が好きで伐るにはあらず、炭焼が炭焼くも炭が好きにて焼くにはあらず、夫れ柚も炭やきも其職業さへ勉強すれば白米も自然に山に登り海の魚も里の野菜も酒も油も自ら山に登るなり、奇々妙々の世の中といふべき也 (尊徳)